

「シジュウカラ」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

シジュウカラ(四十雀)は、最も身近な野鳥と言える。高原や丘陵地、里山といった豊かな自然環境にはもちろん、都会でも普通に見られる。



シジュウカラの最大の特徴は、嘴(くちばし)の下から胸にかけての、黒い羽毛だろう。「シジュウカラは黒いネクタイをしている」と覚えると良い。



風切羽の基部に、白い帯が一筋だけあるのも特徴だ。これで近縁の野鳥としっかり見分けられる。



眼の下の白い羽、嘴周辺のヒゲも特徴だ。チョウやガの幼虫を餌にし、営巣中は複数の幼虫をいっぺんに運ぶので、嘴はやや長く鋭い。そのかわり、ヒマワリの種子などを嘴だけでは割れず、両脚に挟んでつついて食べる行動が見られる。



シジュウカラは、樹木の「うろ」や他の野鳥の巣穴を利用する「樹洞性営巣」という特徴を持つ。実は慢性的な「住宅難」に陥っていて、都会でも高原でも、巣箱をかければ、自分で巣草を持ち込んで、ほぼ100%営巣する。都会では郵便ポストや、横にした植木鉢にまで巣にしてしまうこともある。

上の写真は、カメラ付きの巣箱で観察した営巣の様子だ。4月から6月にかけて営巣し、6~10羽のヒナを夫婦そろって育てる。しかし、自然の巣の場合、半数以上は蛇の被害に遭う。人工の巣箱の場合も、設置場所に十分注意しないと、必ず蛇の被害に遭い、育ち始めたヒナが全滅してしまう。